

笑顔と出会いと——豊橋まつりでベルマークPR

600人超す訪問者がクイズなど楽しむ



①協賛会社からのプレゼントが並び
②マークを持ってきたよ
③クイズ、解けるかな？
④ラッキーベルの脇川雅之さん
⑤ベルマーク PR ブースのスタッフたち

愛知県豊橋市で10月19、20日に開かれた「第65回ええじゃないか豊橋まつり」のイベントのひとつとして、市庁舎東館1階に20日、恒例のベルマークPRブースが登場しました。マークを持参したりクイズに参加したりするとプレゼントがもらえるブースです。

スタッフには豊橋市のベルマーク大使・岡田太絵子さんをはじめとする市教育委員会教育政策課のみなさんと、ボランティアとしてジブラルタ生命保険(ベルマーク番号15)のベルマーク大使・松本哲さん、あいおいニッセイ同和損害保

険(同92)三河支店豊橋支社の方々、それにラッキーベル(同03)のベルマーク大使・脇川雅之さんらが顔を揃えました。松本・脇川両大使はブースへの呼び込み担当です。

開場の午前10時から、ブースは多くの人でにぎわいました。特にクイズコーナーは大混雑。300枚用意した解答用紙は増刷し、プレゼントを入れるために用意したベルマーク財団のエコバッグも午前中ではなくなる盛況ぶりでした。

ブースの回収箱に一番にマークを入れたのは小学2年の松崎琥太くん。お母さ

んの理恵さんによれば「小学校でマークを集めていて、今日はたまたまマークを持っていた」とのことで、プレゼントをもらって笑顔を見せていました。

思わぬ出会いもありました。呼び込みに反応してブースに駆け寄ってきた豊橋市立飯村(いむれ)小6年の山口碧泉(あおい)さんと加藤瑠唯さんです。同小は今年5月からベルマーク運動に参加し、10月から先生の提案で子どもたち自身でも活動を始めたところで、2人とも当事者の児童会委員でした。いい機会だと、松本大使に色々尋ねていました。

豊橋市は2016年から「ベルマーク日本一!プロジェクト」を掲げて活動しています。この日のブースは、プレゼントがなくなった午後3時半で終了。親子連れを中心にのべ600人超が訪れました。

【プレゼント等を提供した協賛会社= ()はベルマーク番号】ラッキーベル(03)、エスピー食品(09)、クレハ(10)、ジブラルタ生命保険(15)、岩塚製菓(16)、キャノンマーケティングジャパン(19)、プラザー販売(28)、成田食品(36)、ブルボン(48)、ナカバヤシ(52)、ショウワノート(53)、クツワ(55)、マルトモ(64)、スミフルジャパン(70)、あいおいニッセイ同和損害保険(92)、マルニ(95)

「仲間がいい」岡崎・火曜会40年

仕分けボランティア、危機を乗り越えて

ベルマーク大使・三田靖子さんが会長をつとめる愛知・岡崎市の「火曜会」は、ベルマークの仕分け・集計ボランティア活動をしています。結成は1980年。活動を始めてから40年を数えます。会長の三田さんやメンバーの方々に近況を伺いました。

発足当時3人だった会員は、現在15人。長く続けている女性が多い中、最近では男性2人が加わりました。昨年度までに仕分けた点数は、統計を取り始めてからの累計で3462万点になります。

毎週火曜日の午前10時から、市のボランティアセンターがある福祉会館で作業します。三田さんは仕分け途中のマークが入った段ボール箱を見せてくれました。「これが私たちの全財産よ」

仕分けは大きな透明袋を使い、まずベルマーク番号の10番ごと、それから会社別に分けて集計します。市内で集めたマークは児童養護施設などに寄贈しています。

そんな会に今年、危機が訪れました。ボランティアセンターが福祉会館から4キロほど離れた市勤労文化センターへ移転する話が持ち上がり、火曜会も活動拠点の引っ越しを迫られたのです。三田さんは「移転すれば通いづらくなり、メンバーが減るかもしれない」と会の解散を提案。でも会員から「辞めてしまうのは寂しい」「火曜日に行くところがなくなってしまおう」と訴える声が続々と上がり、解散はとりやめになりました。

とはいえ、来年の4月には福祉会館から出る必要がありそうで、その後の活動場所は未定です。会員の高齢化も悩みで、若い人の獲得も課題。その一方で、今年の運動説明会でテトラパックが点数になると知り、すぐ個々で集め出すなど、行動力はさすがです。

「1人でも多くの方がマークを集めてくれれば」と三田さん。和やかな中にも芯のある活動をされている火曜会のみなさん、今後もよろしくおねがいします。



①前列右から三田靖子さん、樋口行子さん、後列右から、矢藤純子さん、森昭子さん
②三田さんが「全財産」と言うダンボール箱

「釜木ブック」10年間の活動記録

記念ファイル、財団に届く

ツイッターのベル・ブックさんとしても知られるベルマーク大使・釜木尚美さんが、これまでの活動をまとめた「別府小ベルマーク10周年記念ファイル」を作成し、ベルマーク財団に送ってくれました。

A4判のクリアホルダー、58ページに及ぶ力作。1日1つのネタが365日分詰め込まれた「ベルマークカレンダー」に始まり、児童も読めるよう工夫された手書きのベルマークだよりや、年表などが収められています。

釜木さんの活動の拠点は大阪府摂津市立別府小学校。以前、同校の図書司書として勤めていました。仕事を辞めたあとも別府小のためにマークの仕分け・整理をし、貯めた預金で図書室の本を買っています。「図書館の中の本の1冊として、長く親しんでもらいたい」という願いを込めて作ったそうです。

読めば読むほどクセになる釜木ワールド。見学等でベルマーク財団にお越しの際には、ぜひご覧ください。

